

「ふくおか」から発信する、市民公益活動の情報誌

「明日を担う市民」への思いをこめて

ASUMIN NOTE 18

[あすみんノート]

2019 Winter

No.

地域

変わりゆく「地域」の未来

Special Issue

地域って、どうなるの？

Perception

角博美(西陵校区自治協議会)
川原正孝(株式会社ふくや)
田口吾郎(NPO法人いるか)

@DATA

福岡市は、2300！

Asumin Information

Asumin Recommend

NPOマネジメント講座

Hondana!

神山進化論 人口減少を可能性に変えるまちづくり

Organization Introduction

登録団体紹介:登録番号685～700

地域って、 どうなるの？

地域という言葉は元来、その文字が表すように、土地などのエリアを示すものです。しかし、現代の多様な生き方や価値観の中で、広く「暮らし」全般を指す意味合いも兼ねるようになりました。

福岡市では、小学校区単位での自治協議会を中心に、住民によるまちづくりが進められていますが、そこでのニーズや社会課題にも、地域内の自治的な活動だけでは補えない様々な変化も現れています。

今回の「あすみんノート」では、変化への対応力を創出する「共創」という概念を地域づくりに持ち込んだ「ふくおか共創プロジェクト」での実践例も交えながら、変わりゆく地域の未来について考えてみます。

● 共創デスク（相談窓口）

自治協議会や自治会・町内会などの地域関係者をはじめ、地域と一緒に取り組みたいことがある企業や商店街、NPO、大学などからの相談も受け付けています。相談員の共創コネクターが直接現地に伺い、相談を受ける場合もあります。

お問い合わせ
相談窓口

☎ 070-7582-0497

✉ info@ccp-f.jp

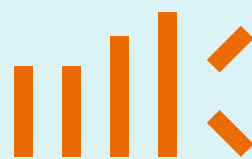
福岡市NPO・ボランティア交流センターあすみん内 共創デスク（福岡市中央区今泉1-19-22 4階）



プロジェクトメニュー

- 地域デザインの学校
- 校区ビジョンの策定
- “ふくおか”地域の絆応援団セミナー
- 円卓会議 など

福岡市が
考える
「共創」



ふくおか共創プロジェクト

CO-CREATION PROJECT FUKUOKA

福岡市では、自治協議会と市がパートナーとして、企業や商店街、NPO、大学などと連携し、地域の未来を共に創り出す「共創」の取り組みを推進しています。

この新しい取り組みを様々なメニューでサポート・実践しているのが、「ふくおか共創プロジェクト」です。

3人が見る「地域」

PERCEPTION

これからの地域活動は、地域に住んでいる住民だけではなく、その地域に関わる企業やNPOなども加わり、さまざまな役割を担うことが期待されています。これからの新たな地域のあり方について、活動をすでに実践されている3人に、自治協議会(地域)、企業、NPOというそれぞれの目線からお話をいただきました。

01



角 博美 さん

地域 西陵校区自治協議会 会長

会長になった経緯を教えてください

私はもともと、専業主婦です。それから、PTA活動をはじめ、当時では珍しい女性のPTA会長までさせてもらいました。社会福祉協議会の会長は、平成とともに始まったので30数年。他にも、いろんな役職をしていますが、お願いされたら断らないのが、男女共同参画の基本と思っているので、この自治協議会も「できることはやらせていただきます」とお引き受けしました。人のお世話は嫌いじゃなかったし、やってみると充実しています。私は、いろんな問題が解決していくのを楽しんじゃうタイプだから。逆に、問題がないと暇でしょうがないですね(笑)。

西陵校区について教えてください

人口は5千数百人です。私が移り住んだ40年ほど前は新興住宅地でしたが、みんなそのまま歳をとり、今では65歳以上が40%を超える校区になりました。若い人に少しずつ入れ替わり始めていますが、市営アパートなどでは、移り住む方がそもそも高齢者という課題もあります。地域活動への参加者も一部の住民に限られ、こちらも高齢化が進んでいます。そんな背景もあり、実は今年から「夏祭り」を「秋祭り」に変更しました。だって、準備をするのはじいちゃんばあちゃんです。真夏の暑い時期にとってもじゃないけど会場作りはできない。だけど、子どもたちは浴衣を着たいだろうから、なんとか浴衣が間に合う9月末

にとりました。他の活動についても、誰でも参加できる。そして、10年以上その体制で続けられるように。そういう改革をしているところです。

そこまでして、地域活動は必要ですか？

かなり整理し減らしていますが、やっぱり何もしなければ、地域の活性化はできません。それこそ災害が発生した際、孤立する住民もいます。普段から知り合っておかないと、歳を取って一人暮らしになった時、おばちゃん元気かなとか、電気が何日も付いてないねとなります。安心・安全のまちづくりってよく言うけど、名前は知らなくても、顔くらいはわかっている方が安心ですよ？ 催しを考え、人を集めることは必要だと思います。

特徴的な地域活動を教えてください

校区には「生の松原」という美しい松原があります。平成23年頃から、松枯れが目立つようになり、住民も何かしようとなりました。それまでは、散歩やランニングをする人だけが知る場所でしたが、持ち主の九州大学や福岡市の許可を取り付け、清掃活動することに。だけど、月に一度の活動は20人くらいで、40ヘクタールもある敷地では手が足りない状況でした。最近では、校区外から企業や学生さんがボランティア活動として参加いただいています。先日も、ある生命保険の会社から70名ほど来られて、これがとても助かった。ちゃんと目的を持ってるので、凄まじく手早く綺麗にしてくれる。ほんとあの人たちには感謝です。住民だけだと限界がありますが、校区外の方に松林の問題を知ってもらうこと。外部の方が少しでも西陵のことを考えてくれるって心強いですね。

西陵校区自治協議会

西区に位置し、人口は5,257人(世帯数:2,679、平成30年)。少子高齢化が進み、高齢化率は区内で3番目と高くなっているが、老人クラブと小中学校との交流活動など、世代間交流が盛ん。

02



川原 正孝 さん

企業 株式会社ふくや 会長

地域活動を始めたきっかけは？

なにより、父であり創業者の川原俊夫の思いです。父は戦争を体験して人生観が変わり「これからは社会に役立つような人生でありたい」と考えるようになりました。もとはサラリーマンですが、それでは時間もお金も限られる。ならば自分の力でお金も時間も作って地域活動をしようというのが創業のきっかけです。利益をしっかり出し税金を納め、社員の雇用を守る、残ったお金で地域活動をする。最初からそういう思いで地域活動に取り組んでいます。汚いどぶ川だった博多川を魚の棲める川にしようという運動や子どもの小中高とPTA会長を務め学校に体育館や講堂を作るための募金活動、中洲と天神を繋ごうと「であい橋」を構想したのも父です。利益を出さなければ地域活動もできない、と商売人として初めから利益を出す目標がはっきり決まっていたんですね。昭和54年度には川原俊夫が福岡市の納税者No.1になったんです。税金をより多く納めるため、個人商店のまま商売をして法人化しなかった。そこだけ聞いても変わっているでしょう(笑) だけど、これだけ明太子が広まったのも地域のおかげなんです。戦後満州から引き揚げてきましたが、母は糸島、父は朝倉出身で、福岡とは縁がないのに、地域のおかげで商売をさせていただいている。だから地域に恩返しするべきだと。ですから、繰り返しになりますが、ふくやは地域活動をするために作った会社なんです。明太子のつくり方を教えてほしいといわれた時も「どうぞ」と、最初からオープンにしたのもご理解いただけていると思います。

社員のボランティア活動も盛んです

社員には「行きたいボランティア活動に行きなさい」と、時間とお金を提供しています。PTAや地域の役員をすれば「地域役職手当」を出しますし、活動への参加は勤務時間中でもOKです。ボランティア活動は地域の役員やPTAだけでなく、柔道や剣道、サッカーといったスポーツのコーチでも構いません。この制度はボランティア活動を社員に気兼ねなくしてもらうために、平成2年度から始めました。

「網の目コミュニケーション室」とは

私の兄の造語で、一人がある誰かと知り合ったら、その知り合いがまた誰かを紹介してくれ、網の目のようにネットワークが広がる。これを「網の目コミュニケーション」と呼んでいます。人との繋がりが広がるお手伝いをするのも一つのボランティア活動だと考え、会合の事務局の仕事も引き受けています。例えば、縁があって「ふくおか広島県人会」の事務局をしています。うちの役員には誰も広島の人はいないんだけど(笑)。

他の企業にも地域活動はできますか？

できると思うですよ。当社では以前から毎朝、町の掃除をしています。今ではいろんな会社で清掃活動をしてますよね。福岡市の一人一花運動を応援している企業もたくさんあるじゃないですか。「ふくおか」地域の絆応援団」の集まりでいろんな企業さんと話すと、多彩な取り組みがあることに感心します。ただし、問題は人が替わったらそこで止まってしまうところですね。企業の理念がそこないと、社員個人が良いと思っていても、続けにくいものだと思います。

地域とのつながりは、企業の為にもなりますか？

CSRという言葉が出た時、当社では当たり前のことでした。社員を地域活動に出すのはとても有意義な研修です。会社は組織なので肩書きで動きますが、ボランティア活動では肩書きは通用しません。社長とか部長だからではなく、参加する本人が活動にどれだけ積極的か、本気で接しているかで決まります。そこで社員は肩書きにとられないリーダーシップの取り方を勉強します。それは企業にとっても大きな財産になりますし、何より自分の成長になることを社員自身もわかっているから、毎年、何十人という社員が地域役職手当を申請するんだと思います。「地域の組長を積極的にやりなさい」「みんなが嫌がるPTAの役員も手を挙げなさい」「最初は大変かもしれないけど、やると色々勉強になるよ」と日頃から話しています。会社では学べないことも、地域や学校活動から学べます。私もPTA会長をしましたし、家内も民生委員を20年ほどしました。地域では「ふくやの社長」と呼ばれたことは一度もなく「〇〇ちゃんのお父さん」と呼ばれてました。活躍の度合いなのか、最近は家内の方が有名で私の影は薄いようです(笑)

株式会社ふくや

昭和23年博多区中洲に創業。朝鮮の「明卵漬」を日本風にアレンジした「明太子」を製造。商標登録も特許も取得せず製造方法を教えたため、様々な風味の明太子が生まれ博多名物に定着した。

03



田口 吾郎 さん

NPO NPO法人いるか 代表理事

団体を組織したきっかけは？

立ち上げのきっかけは、東日本大震災です。現地で一ヶ月くらいボランティアをして福岡に戻る際「一人では何もできない」と痛感しました。何をするにも、誰かの力を借りなければいけないと、次の給料とボーナスをNPOの立ち上げ資金にし始めました。活動は子どもの学習支援が中心事業です。地元である下山門の駅を降りて、団地の光景がパッと広がったのを見て「ここを守りたいな」って思いました。ある講演会で、NPO活動は「溺れている人がいたらパッと手をさしのべる感覚」という話を聞き、すごく感動したのを覚えています。それまでは、人からの批判が怖くて思い切った事業に踏み込めずにいましたが、その後すぐに起きた熊本地震では、行くか行かないかの判断に迫られ、僕らは、大変だけど行っちゃったんです。毎朝98校の小学校(熊本市)に電話し、昼は買い物、夜は届けるというのを二週間続けました。必死でやったその経験で、踏ん切りがついたのか、それ以降は、大きく見えていた他のNPOさんも等身大で見れるようになりました。

地域での活動について

僕が地域と言われて思い浮かぶのは、誰かよりも、団地とかで夕食の準備の前におばちゃんたちが立ち話しているシーンです。そんな姿を守りたいというのが、NPOのテーマでもあります。だけど、いろんな校区に企画を持ちこみましたが、

学び場事業ではすべて断られました。僕たちは、いいことをしたい一心ですが、どこに行っても、NPO自体が怪しいと言われましたね。はじめは正しく理解してないのではと思っていましたが、どうやらかつて実施した事業がうまくいかなかった経験が不信感につながったのかもしれませんが、そんな中、地元の自治協議会の会長さんが、よく話を聞いてくださる方で事業を受け入れてくれました。だけど、実現にはとても時間を要しました。僕たちが始めた時は、まだ学習支援が一般的ではなく、九州では全く知られていない状況。当初は自治会費をあてにしたサービスを提案しましたが、そんな出費に理解をもらえず、酷く批判も受けました。一度は白紙に戻ったりと大変でした。最終的には、自治会のほか民生委員や公民館、子ども会も入り、十数人規模の実行委員会を組織し、受け入れ側というより実施者本人になることができ、課題意識も生まれたと思います。

NPOと地域は繋がれますか？

地域自治が言われますが、実際は他の力を借りるべき点も多々あります。だけど、NPOが入りづらいのも地域です。これは、地域から金銭的な対価を得ようとするからでしょう。仕事はいっぱいあるけど、手取り早いメリットやお金もない。だけど地域には、NPOが取り組むべき課題だけはたくさんあります。それともう一つ、「大変でしょ手を差し伸べますよ」って近づいても、敬遠されてしまいます。数値的には厳しくても、そこで彼らは普通に暮らしています。実は、大変だとさえも思っていない。だから、一番はじめにすることは「待つこと」なんですよ。 「実はね」って本音を語ってくれるまで、のんびり寄り添っておくことをおすすめします。

NPO法人いるか

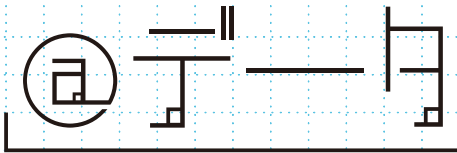
平成25年に設立。高齢者・障がい者向けのサービスなどを提供し、平成27年より無料学習会「マナビ/」を開始。現在市内20ヶ所以上で開設。登録スタッフは学生から社会人まで300人ほどに及ぶ

ふくおか 地域の絆 応援団

「“ふくおか”地域の絆応援団」に登録している、企業や商店街などが行う地域に貢献している活動を福岡市のホームページで紹介しています。
●福岡市:「ふくおか」地域の絆応援団HP



「ふくおか地域の絆応援団」は、福岡市内で地域活動(自治協議会や自治会・町内会など)に貢献している企業やNPO・大学・商店街などを広く紹介することで、そのほかの多くの企業等にもその活動の価値や意義を知ってもらい、さらなる地域活動への参画を促す仕組みです。セミナー等も実施し、持続可能な地域コミュニティづくりを応援しています。



「@データ」は、市民公益活動に関わるさまざまな「データ」をもとに、詳しい方の意見を聞いたり、考えるきっかけをつくるコーナーです。

Tag:

#福岡市は、2300!

★Data1

地域を住みやすくするための地域活動の大切さ
自治会・町内会の必要性とその理由

教えてくれた方

福岡市市民局
コミュニティ推進課

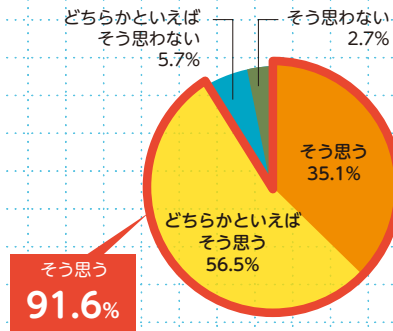
竹園加奈子さん

Kanako Takezono



みんなで
よりよいまちを!

自治会は必要だと思うか

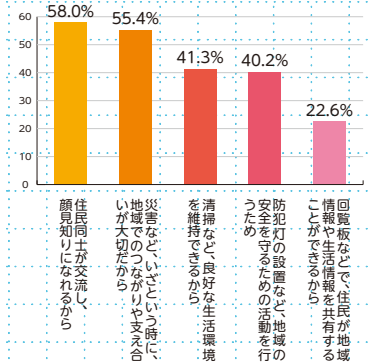


そう思う
91.6%

▲平成30年度市政アンケート

自治会が必要だと思う理由

※上位5項目(複数回答)



地域活動は、やっぱり大切

市政アンケートの結果では、「地域活動を行うことは大切だと思うか」という質問に肯定的な回答は9割超となっています(Data1:平成30年度市政アンケート)。活動の種類としては、生活の安心安全に直結する「防犯」や「防災」が特に求められているようです。

しかし、実際に参加されているのは「環境美化」「住民同士の交流事業」「スポーツ・レクリエーション」などが多く、地域活動を始めるきっかけとして、住民同士が知り合いになれるような取り組みが大きな役割を果たしていることがわかります。

まちづくりの主体となるのは…

市民の皆さんが地域活動に参加するためのもっとも身近な場として、「自治会・町内会」がありますが、その数は福岡市内で2300にも及びます。この枠組みは、平均270世帯程度をひとつのまとまりとして組織され、暮らしの安全・安心、住民間の交流、子どもや高齢者の見守り、清掃や文化活動など、その活動は多岐にわたっています。

また、自治会・町内会や分野ごとに活動している各種団体が小学校区単位に集まって組織された「自治協議会(151団体)」(Data2)では、さまざまな事柄について、みんなで話し合いながらまちづくりに取り組んでおり、そのほとんどが地域のみなさんのボランティア活動によるものです。

どうして参加が難しい?

一方、同アンケートでは半数近くの方が「参加したことがない」と回答されていることから、地域活動への住民の参加が増加しているわけではありません。その理由は、「仕事で時間が取れない」「参加方法がわからない」「一緒に参加する人がいない」「活動時間があわない」など(Data3:平成30年度市政アンケート)で、自治会・町内会への未加入についても「加入をすすめられたことがない」「連絡先や加入方法がわからない」「活動運営の状況がわからない」という理由が挙げられています。

自治会・町内会の活動と住民参加のミスマッチには、情報やコミュニケーションなど「うまくつなぐ」ことに課題があるようです。

地域とNPO・企業をつなぐ

これまで、地域活動をサポートするのは「行政」しかないと思われてきました。ですが最近では、その担い手として、NPOや企業の存在が注目されています。

単にボランティア活動の人手や寄付等の資金面でのお手伝いに留まらず、自分たちが持つスキルやノウハウを生かした地域活動の支援や対等な協力関係を築いている例も少なくありません。あすみん内にある「共創デスク」では、いろんなケースに対応しながら、ウィンウィンの関係づくりを目指していますので、ぜひご相談ください。

★Data2

まちづくりの主体となる
組織とその数

2307 団体

自治会・町内会

マンション1棟で1自治会というところもあります。顔の見える関係でまちづくりに取り組みます。

▲令和元年9月1日現在

151 団体

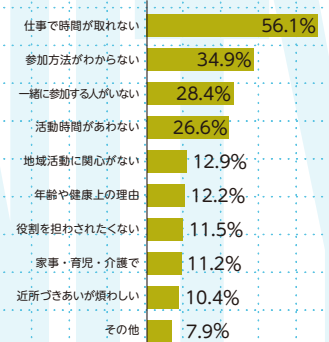
自治協議会

市内の全小学校区で設立されています。基本的に各校区には必ず公民館があり、まちづくりの拠点になっています。

▲令和元年12月1日現在

★Data3

地域活動に参加しなかった
(できなかった)理由



▲平成30年度市政アンケート

あすみのオススメ

Asumin Recommend

NPOマネジメント講座

NPOの基盤強化を目指した連続講座「NPOマネジメント講座」を全7回で開講中です。前半の1～4回では「運営基盤の強化」に重点を置いたスキルアップを、そして後半の5～7回では「活動のフィールド」についてその可能性を探ります。希望回のみ参加も可能です。組織の基礎作りや事業の拡大・発展をお考えの皆さん、是非団体メンバーと一緒に受講して、自分たちの組織の今とこれからを考えてみましょう！



日時: 第3回「労務と財務」(講師: 松崎裕二氏 株式会社ミカサ)
2020年1月9日(木) 19:00～21:00
第4回以降の詳細はあすみんHPへ
<https://www.fnvc.jp/event/detail/926>



※参加には事前申込みが必要です。あすみんまでご連絡ください。

ホンダナ!

Hondana!

あすみの図書コーナーに
所蔵している書籍をご紹介します!

神山進化論 人口減少の可能性に変えるまちづくり



ISBN: 978-4-7615-2692-4
定価: 2,200円(2,000円+税)
判型: 四六判
ページ数: 256

地方創生の成功事例として取り上げられることも多い、徳島県神山町。そのユニークなまちづくりの動向を丹念に追った一冊です。まちづくりに関わった方を、実名と写真でリアルに紹介することで、決して特別な人が実現したわけではなく、しかし「神山町ならではの」を活かしたものだといえます。神山町での取り組みを他の場所・人に応用する際にも役立つ、本質が実感できる静かなドキュメンタリーです。

【著者】神田誠司
【発行】株式会社学芸出版社
【発行年】2018年

登録団体紹介

Organization Introduction

あすみに登録された団体を紹介します。(登録番号685～700)

- 一般社団法人 シラスの会 福岡支部
- 学校給食改革委員会
- 日台親善会議福岡大会実行組織委員会
- Zero Waste Hakata
- 福岡ウェルネスコンディショニング協会
- 認定特定非営利活動法人 Teach For Japan
- NPO法人おうちプロジェクト
- 灯台とスプーン
- 林業NPO森のなかまたち
- 博多PHP「福みみ女志会」
- 特定非営利活動法人学生ネットワークWAN
- YOUNG AMERICANS 福岡実行委員会
- Thanh Nien Viet Nam サークル
- AFS 福岡学生部
- 特定非営利活動法人 バリアフリーネットワーク会議
- Over the Wall Fukuoka

登録有効期限のお知らせ

登録番号が[0001～0658]の団体は、2019年8月31日をもって、2019年度の登録有効期限が終了いたしました。未更新の場合は、貸室の利用やホームページの利用ができません。手続きがお済みでない団体は、お早めに手続きをお願いいたします。

必要な書類など、詳しくは窓口へお問い合わせください

利用団体登録について

check!

あすみんでは、施設やサービスを利用される団体に関して、利用団体登録をお願いしています。福岡市内で活動し、市民公益活動に取り組む団体(主にNPOやボランティア団体)が対象となります。登録に必要な書類は、下記の(1)～(6)になります。ご記入のうえ、窓口までお持ちください。また、(7)、(8)は登録の際にご持参ください。登録申請時には、書類の確認・面談を行います。

登録に必要な書類

- (1) 福岡市NPO・ボランティア交流センター施設利用許可申請書(団体)
- (2) 団体の運営に関する規則(定款、規約、会則等)
- (3) 活動計画書
- (4) これまでの活動実績がわかる資料
- (5) 役員名簿
- (6) 自己チェックシート
- (7) 印鑑
- (8) 申請者本人確認書類(運転免許証、健康保険証など)

福岡市NPO・ボランティア交流センター あすみん

【住所】〒810-0021 福岡市中央区今泉 1-19-22 天神クラス4F

【TEL】092-724-4801 【FAX】092-724-4901

【MAIL】info@fnvc.jp 【HP】<https://www.fnvc.jp>

【開館時間】月～土曜 10:00～22:00 日・祝日 10:00～18:00

【休館日】第4水曜日、年末年始 12月29日～翌1月3日

【facebook】<https://www.facebook.com/asunoshimin/>



HP



facebook



お越しの際は公共交通機関をご利用ください

- 地下鉄をご利用の場合 ●七隈線「天神南」駅 1番出口から徒歩6分
- バスをご利用の場合 ●西鉄バス「今泉1丁目」徒歩1分
- 電車をご利用の場合 ●西鉄福岡(天神)駅 南口から徒歩5分

